

長谷川 望牧師

- * 「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」 (ルカ 2 : 11) ダビデの生まれ育った町ベツレヘムの寒村で救い主イエスが生まれたことが最初に知らされたのは、イスラエルの指導者や権力者ではなく、野宿をしていた羊飼いであった。彼らの仕事は厳しく、社会的にも下層階級で、様々な差別と偏見を受けていた。しかし、アブラハムも、モーセもそしてダビデも羊飼いで働いた。主はそのように、弱い、低い者に目を留められてともに歩まれ、大きな仕事をさせられるのである。
- * 「あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つけます。それが、あなたがたのためのしるしです。」 (2 : 12) み使いは、羊飼いたちが「救い主」を見つけるかもしれない、或いはみつけてください、ではなく、「必ず見つけます」と確信をもって羊飼いたちにメッセージを送った。
- * すると突然、その御使いと一緒におびただしい数の天の軍勢が現れて、神を賛美した。「いと高き所で、栄光が神にあるように。地の上で、平和がみこころにかなう人々にあるように。」 (2 : 13 ~ 14)
「Gloria」で知られるもこの賛歌は目と耳に訴える大スペクタクルであった。救い主を預言通り送ってくださった神は素晴らしいわざをなしてくださった。天でいつまでも栄光があるように。そして「地上に平和が」。「平和」(ヘブル語ではシャローム)の意味は平和、平安、和解、安心、健康などと訳され、広い意味があるが、すべて「神様との平和」、すなわち神との交わりが豊かにあるということが根底にある。イエス・キリストは十字架の死によってその役割をなして下さるために来られた。
- * 「みこころにかなう人々」。「神のみこころ」とは、地上の人々がみな救われることである。それゆえ、イエス・キリストを救い主として信じて生きる人には「平和」が与えられるのである。